



月報だよりの原稿は毎月20日締切、翌月に発行の「天文月報」に掲載いたします。校正をお願いしておりますので、締切日よりなるべく早めにお申込みください。

e-mailで toukou@geppou.asj.or.jp 宛にお送りください。折り返し、受領の連絡をいたします。

研究助成

公益財団法人宇宙科学振興会 2020年度助成事業2件

公益財団法人宇宙科学振興会は宇宙科学分野における学術振興を目指し、2020年度も引き続き下記の助成事業を行います。それぞれの応募要項の詳細は当財団のホームページ：<http://www.spss.or.jp>に掲載しています。それぞれの公募に対する応募申請に際してはホームページご参照の上、申請書をダウンロード・作成いただき必要な書類を添付の上、財団宛に電子メール（admin@spss.or.jp）で申請下さい。奮ってご応募いただくようご案内申し上げます。

(1) 国際学会出席旅費の支援

●支援対象

宇宙理学（飛翔体を用いた観測、探査、実験に関連する理学研究）および宇宙工学（宇宙航空工学を含む）に関する独創的・先端的な研究活動を行っている若手研究者（当該年度4月2日で35歳以下）、またはシニアの研究者（当該年度4月2日で63歳以上かつ定年退職した者）で、国際研究集会で論文発表または主要な役割などが原則として確定している者。

●助成金額・件数：一件あたり10～30万円程度、年間10件程度

●申し込み受付時期

応募締切り2020年8月31日：2020年10月1日～2021年3月31日の間に開催初日が予定される学会対象

応募締切り2021年2月28日：2021年4月1日～2021年9月30日の間に開催初日が予定される学会対象

(2) 国際学会開催の支援

●支援対象

宇宙科学研究を推進している国内の学術団体（研究所、大学等）で、宇宙理学（飛翔体を用いた観測、探査、実験に関連する理学研究）および宇宙工学（宇宙航空工学を含む）に関する国際学会、国際研究集会の国内開催を主催しようとする団体。

●助成金額・件数：一件あたり20～50万円程度、年間4件程度

●申し込み受付時期

応募締切り2020年8月31日：2020年10月1日～2021年3月31日の間に開催初日が予定される学会対象

応募締切り2021年2月28日：2021年4月1日～2021年9月30日の間に開催初日が予定される学会対象

●照会先

公益財団法人宇宙科学振興会事務局

<http://www.spss.or.jp>

〒252-5210 神奈川県相模原市中央区由野台3-1-1

E-mail: admin@spss.or.jp

Tel: 042-751-1126

賞の推薦

2020年度「第41回猿橋賞」推薦依頼

1. 対象：推薦締切日に50才未満で、創立の趣旨に沿って自然科学の分野で優れた研究業績を収めている女性科学者（ただし、日本に在住・在職で、かつ今後も国内で若手の育成に貢献できる人）
2. 表彰内容：賞状、副賞として賞金30万円、1件（1名）
3. 応募方法：

【推薦書類の作成】

推薦書は、ホームページ <http://www.saruhashi.net/> からダウンロードしたワードファイルに記入した後、PDF形式で保存してください。

【記入事項】

- (1) 推薦者（個人・団体、自薦も可）、受賞候補者の略歴
- (2) 推薦対象となる研究題目
- (3) 推薦理由（A4記入用紙1ページに収まること）
- (4) 主な業績リスト（指定は1頁。やむを得ない場合でも追加は1頁まで。）

【添付資料】

主な論文別刷5編以内。添付資料はPDFファイル

ルで作成して下さい。

【送付先】

saruhashi2020@saruhashi.net

推薦書 (PDF ファイル) にはパスワードを付け、添付資料の PDF ファイルと一緒に送付してください。推薦書のパスワードは別送付してください。

4. 締切は2020年11月30日 (必着)

(本宛先は推薦書受付専用です。書類は、猿橋賞選考のためにのみ選考委員会などで用いられます。書類は返却いたしませんのでご了承下さい。) 今後、募集要項に変更がある場合は、ホームページに掲載いたしますので、応募の際はホームページをご確認下さい。なお、この件についての問い合わせは、下記に電子メールでお願いいたします。

saruhashi2020@saruhashi.net

会 務 案 内

「内地留学奨学金」から「国内研修支援金」へ名称変更いたしました。

2019年9月の代議員総会において「内地留学奨学金」から「国内研修支援金」への名称変更が承認されました。

「内地留学奨学金」は、主にアマチュアの方々の研究活動を支援する為、昭和54年(1979年)に設立されましたが、ここ数年は申請者数の減少が続いています。

「内地留学」という用語は、辞書によれば「官庁・会社・学校などの職員が、現職のまま国内にある自己所属外の大学や研究機関に派遣されて長期にわたる研究をすること」とあります。しかしながら、現在では馴染みのない用語であり、特に若い世代を中心に奨学金の意図が伝わりにくいことが申請者減少の一因と考えました。また、上記の定義によれば「現職のまま」となっているため有職者を対象としていると理解され、例えば退職後に天文活動を行いたいという場合は対象者となりません。そこで、奨学金の意図をより明確にし、申請者の幅が広がるよう「国内研修支援金」へ名称を変更することにしました。

名称変更によって本制度の意図がより明確になり、広く認知されることで、申請者数の増加に繋がります。アマチュアによる研究活動が活発化することを期待しています。対象になる皆様からの応募をお待ちしています。

2021年度国内研修支援金

(旧 内地留学奨学金) の希望者の募集

国内研修支援金は、日本国内の大学や天文台などの研究機関で研究者の指導を受けて研究活動を行う際の消耗品・旅費等の経費の支援をするものです。

日本天文学会会員でアマチュア天文研究者、学校の教員、科学館・プラネタリウム・公共天文台などの社会教育施設の職員およびこれらを退職されたシニアの研究者が主な対象です。学生の応募も可能です。

過去の支援金(旧 奨学金)の対象となった研究テーマは、学会ホームページ (http://www.asj.or.jp/asj/naichi_app.html) に掲載されています。なお、研究内容にふさわしい機関や指導者がわからない場合は、早めに国内研修支援金選考委員長にご相談ください。多くの方々の応募をお待ちしています。

募集要項

応募資格: 日本天文学会会員 (2020年4月1日時点)

採 扱 数: 若干名

研修期間: 2021年4月から2022年3月までの12カ月のうち希望する期間。受入研究機関、指導教員(受入研究者)と相談して決定してください。研究終了後、2カ月以内に研究報告書の提出をお願いいたします。

支 給 額: 25万円以下。支給は2021年4月を予定。

申 込 み: 応募申請書に必要事項を記入し、指導教員の捺印とコメントを得たうえ、〒181-8588 東京都三鷹市大沢2-21-1 国立天文台内日本天文学会事務長あてに郵送してください。

応募締切: 2020年8月31日(月) 必着。

審 査: 国内研修支援金選考委員会(内規第5条)で審査のうえ、決定し、10月中旬に通知します。採扱された場合: 研修終了後には研修成果報告書を必ず書いて提出してください。

応募用紙: 日本天文学会事務所にあります。申請書の書き方例もありますので、事務所にご請求ください。学会ホームページ(「各種手続・書式」の「国内研修」の項、http://www.asj.or.jp/asj/naichi_app.html)からもダウンロードできます。なお、日本天文学会会員名簿の巻末に国内研修支援金に関する内規があります。

ご相談・問合せ先: 国内研修支援金選考委員長

戸田雅之

E-mail: metrotokyo_masa_toda@yahoo.co.jp

天文月報記事投稿用アップローダー

<http://www.asj.or.jp/geppou-office/toukou/index.php>

■ログイン法

login: geppou passwd: toukou

■アップロードの仕方

アップロード画面にいったまず必要事項を埋めてください。

するとアップロードに進むことができます。ファイルが複数ある場合は「投稿フォームを増やす」ボタンを押してください。押すたびに欄が増えます。

1回あたり全部で最大50 Mbyteまで、個数は20個まで送信できます。(それ以上の巨大なファイルのアップロードは推奨されませんが、やむをえない場合は分割してお送りください)。

■注意

投稿者の個人の認証はcookieを利用しています。

したがってcookieを受け取らないブラウザでは使えません。

またフォームのチェックや可変個数のアップロードボックスはjavascriptを利用していますのでjavascriptが使えなければこのアップローダーは使えません。

その場合は従来どおり、toukou@geppou.asj.or.jpまでメールでご投稿ください。

■連絡先

アップローダーに関するご質問はtoukou@geppou.asj.or.jpまでお願いします。

(天文月報編集長)

天文月報記事ご執筆用テンプレート (SKYLIGHT, EUREKA, 天球儀)

ご執筆にあたりましては、日本天文学会HP内「天文月報」のページにあります「投稿用テンプレート」をご活用ください。

<http://www.asj.or.jp/geppou/yoko/template.html>

texで執筆される方はtexテンプレートをオンライン上またはダウンロードしてご利用ください。MSWordで執筆される方はwordテンプレートをダウンロードしてご利用ください。また、ご執筆の前に必ず「執筆マニュアル」をご一読ください。

http://www.asj.or.jp/geppou/yoko/geppou_manual_1.pdf
texをご利用される場合は、あわせてreadmeもお読み下さい。

星空市場

[意見]

社会天文教育はこれでいいのか

現在日本にはプラネタリウム館や公開天文台が沢山あり、多くの市民で賑わっている。しかし社会教育は学校教育と違って内容に系統性がなく、強制力もない。それで来館者を増やすためお客さんを楽しませること(エンタメ)が主眼となる。だから天文教育の主体は観望会で、望遠鏡で天体を見せ、手短かに解説してお開きとなる。ここでの天文学は刺身のツマ程度にすぎない。従って市民には科学的な見方考え方が一向に身に付かない。市民は数学・物理学で構築された天文学を「敬して遠ざかり」、天界観光で満足している。これは理性より感性を優先する世相の反映である。

私はこれが残念でならない。ノーベル物理学賞を受賞した朝永振一郎博士は次のように述べた。

ふしぎだと思うこと　これが科学の芽です
よく観察して確かめ　そして考えること　これが科学の茎です
そして最後に謎が解ける　これが科学の花です
と。科学の楽しみはエンタメの楽しみとは違うのだ。私はこの流れに沿って行動するのが天文学教育だと考える。一例を挙げれば、市民から宇宙裁判員を募集し、被告を太陽としてなぜ輝いているのか、そのエネルギーはどこから得るのかを議論させる。裁判員は前以ていろいろな資料を調べ、法廷に臨む。検察官(職員)は傍らで見守り、必要に応じて助言する。こういう市民参加の能動的学習こそ真の天文学教育ではなからうか。

佐藤明達(東京都葛飾区)

参考文献

関口直甫著、1960、月面裁判(恒星社厚生閣)

天文月報編集委員より

天文月報オンラインでは、新型コロナウイルス感染拡大防止のため思うように外出もできないこの時期に、多くの天文に興味を持つ方にお読みいただけますよう、発行後一年間は会員限定で公開している一部の記事を、すべて公開しております。普段はすぐに読めないシリーズや雑報などもお読みいただけます。少しでも多くの皆様にお楽しみいただけますよう、周りの皆様にお知らせいただければ幸いです。

天文月報オンライン/投稿用アップローダーのIDとパスワード

ID: asj 2005

パスワード: 雑誌コード(5桁の数字と) **vol113**(6文字)の計11文字を入力してください。「雑誌コード」とは印刷版の月報の裏表紙の右下に書かれている「雑誌○○○○○▲」の○○○○○の部分です。○○○○○は各号共通の数字です。

松田有一(委員長)、市川幸平、岩井一正、江草実、岡部信広、押野翔一、小高裕和、嘉数次人、小宮山裕、滝脇知也、富田賢吾、中村航、西塚直人、秦和弘、福井暁彦、前原裕之

令和2年6月20日 発行人 〒181-8588 東京都三鷹市大沢2-21-1 国立天文台内 公益社団法人 日本天文学会

印刷発行 印刷所 〒162-0801 新宿区山吹町332-6 株式会社 国際文献社

定価733円(本体667円) 発行所 〒181-8588 東京都三鷹市大沢2-21-1 国立天文台内 公益社団法人 日本天文学会

Tel: 0422-31-1359(事務所)/0422-31-5488(月報) Fax: 0422-31-5487 振替口座00160-1-13595

日本天文学会のウェブサイト <http://www.asj.or.jp/> 月報編集 e-mail: toukou@geppou.asj.or.jp

会費には天文月報購読料が含まれます。

©公益社団法人日本天文学会 2020年(本誌掲載記事は無断転載を禁じます)